□Soerjani, M., A. J. G. H. Kostermans & G. Tjitrosoepomo (eds.): **Weeds of rice in Indonesia** 716 pp. 1987. Balai Pustaka Jakarta. Rp. 50,000. A 4 版の大型本で，主な部分はインドネシアの田圃の雑草とその芽生えを図解したもの。著者はインドネシアとオランダの研究者10人，図はインドネシア人による。54科266種を収録してある。イネ科，カヤツリグサ科，キク科，ゴマノハグサ科などが多く，温帯地方との共通種も含まれる。図の大部分は頁大の線画で，1種ごとに1図で，266枚の植物図(全体図と花や種子の拡大図を含み，良い図である）と54枚の芽生え図（1図に3-7種を含む）よりなる。記述には形態上の特徴のほかに生態，分布，除草法などの項目もある。私は1989年夏にボゴール植物標本館にしばらく滞在したが，その折に著者の1人コステルマン博士から本書を譲られた。同博士は1906年生れで83歳，クスノキ科をはじめ，アジアの熱帯雨林の樹木を広く研究し，多くの論文を発表している。最近も毎日研究所に来て，目下マンゴーのモノグラフをまとめている。コステルマン博士によると，本書は「世界で一番安い本」とのことであり，原価は日本円で約4,100円に相当する。内容，紙質，印刷および造本などの質の高さからみて，たしかに驚くほど安い。インドネシアにおける米の栽培，田圃の雑草の生態等の小論文も含まれ，生態学，農学でも役に立つだろう。注文はコステルマン博士が引き受けるという。連絡先は Herbarium Bogoriense, Jl. Ir. H. Juanda 22-24, Bogor 16122, Indonesia.　　（大橋広好）

□Michael, H. & C. King: **100 families of flowering plants, ed. 2,** xvi+619 pp. 1988. Cambridge Univ. Press. ¥ ca 2,000. さりげない表題の書であるが，クラシックに徹しながら新鮮さがある。Cambridge 大の研究室は本温室と細い通路で結ばれ，ここも温室になっている。栽培と研究が直結する構造になっているのである。序文を寄せた S. M. Walters 博士は本書の構成に深くかかわっているように見える。同氏は *Alchemilla* ハゴロモソウ属などの種分化を研究した人で，この大学の附属植物園の前園長である。しかし本書にはそういう面はみじんも出ていない。第1版より大版となり，採用した科や挿図の改廃もある由。新古典的な教科書として英国式に手固くまとめられた。初版以来の5年間に受けた批評の中，受容さるべきものは採用された。世界にある300～400科のうち100科に限ったのであるから，英国内に自生し，あるいは普通に栽培される科に限られたのは当然である。各科の代表的な1～3種を適宜に 3～13 pp. の範囲内で，記載し，図説した。これらはすべて生植物でなされているのが強味で，部分図，解剖図には目を見張らせる迫真性のあるものが多く，多分専門家にも役立つものと思われる。書頭の総論の中，術語の使い分けには目新しく明解なものがある。巻末に各科の主要な特長の表と，10個の重要と考えられた形質の分布を現わす表などがついている。　　（津山　尚）